令和５年度　学 校 経 営 計 画 に 対 す る 最 終 評 価 報 告 書

石川県立大聖寺実業高等学校

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	基本的生活習慣の確立を基盤とし、生徒の自己調整力を高めることにより、自立した学習習慣の確立を図る。	①	本校の授業心得を周知し、授業規律の徹底を図るため、校内外の挨拶を積極的に励行する。また朝礼や授業開始時にロッカーの上や机の周りを点検し、乱れがあれば片付けさせる。	毎日、自ら積極的に挨拶することを心がけ、実行している生徒および教員の割合が Ａ　９５％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満	【生徒】【教員】 評価　Ａ　Ａ 後期　97%　100% 前期　96%　100%	集計結果では、生徒の97%、教員の100%が、自ら積極的に挨拶することに取り組めたと答えた。その内の生徒63%、教員84%が「している」と回答している。昨年度は「概ねしている」と答えた割合が、生徒・教員ともに過半数を超えていた。生徒・教員の意識の変化が見られる結果となった。今後も、産業人にとって必要な資質の一つとして、挨拶の励行を指導していきたい。
				私たちの教室は整理整頓されており、学習に相応しい環境であると感じる生徒および教員の割合が Ａ　９５％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満	【生徒】【教員】 評価　Ｃ　Ｂ 後期　83%　91% 前期　91%　94%	例年、前期よりも後期に評価が下がる傾向にある。教室の私物の整理が十分でないことが原因にあるようなので、体育用具や部活動用具の管理を徹底して行うよう指導していきたい。
		②	スキルアップタイムを活用した学習を通して、将来の産業人として必要な基礎学力の定着を図る。	文章を読む力、内容を理解する力、考えを表現する力が向上したと感じる生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満	評価　Ａ 後期　90% 前期　88%	肯定的な意見の割合は 90%でＡ評価であったが、「概ね実感している」と答えた生徒の割合が 62%で、十分な成果が得られたと言い難い。生徒が主体的に学習し、学力が向上したと実感できるように、指導の方法を改善していきたい。
		③	集会やＷｅｂ等による定期的な指導を通して、規範意識の高揚と校則の遵守を身につけさせる。	昨年度と比べ、指導件数が Ａ　２０％以上減少 Ｂ　１０％以上減少 Ｃ　１０％未満減少 Ｄ　増加した	評価　Ａ 27.5%の減少 今年度　50件 昨年度　69件	昨年同様、遅刻や携帯電話使用について、繰り返し指導を受ける生徒は一部いるが、指導内容は軽微なものがほとんどである。大きな問題もなく、生徒は落ち着いた生活を送っている。今後も家庭と連携するとともに、校内での情報共有を密にし、指導を受ける生徒の減少に努めていきたい。

関係者評価委員会の評価	・学校に来る度、「生徒は、よく挨拶している」と感じる。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・昨年度に比べ、生徒や職員の意識に変化が見られた。今後とも、挨拶の指導を継続していく。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2	１人１台端末を効果的に活用した指導方法の工夫･改善により、個別最適な学びと主体的･対話的で深い学びの実践をとおして、確かな学力を身につけた地域に期待される人材を育成する。	①	学習意欲を喚起する授業の工夫と１人１人が主体的に取り組む学習指導を推進する。	1人1台端末の活用や探究活動を取り入れて、個に応じた学習が進められるよう授業の工夫を行っている教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	評価　Ｃ 後期　78% 前期　73%	肯定的な意見の割合は教員 79%でＣ評価であったが、ＩＣＴ機器の活用などで授業改善に取り組む教員の割合は増加傾向にある。機器の操作よりも、使いやすいソフトやアプリケーションについて研究し、授業における効果的な使用方法について校内研修等を行っていきたい。
				授業改善に生かす目的を持って、互観授業に参加した回数が Ａ　６回以上 Ｂ　５回以上 Ｃ　４回以上 Ｄ　４回未満	評価　Ｃ 1人平均が4.4回	今年度、新たに設けた評価項目である。昨年度までは、前・後期に授業公開期間に参観するだけで、参観回数は決めていなかった。今年度、５回以上の参観目標を立てたが、達成することは出来なかった。次年度は、参観回数を増やし、その後の意見交換の機会を設けることで授業改善に繋げていきたい。
		②	質問に対して、根拠や理由を示して答えさせることで深い学びにつなげる。	学習内容について、考える力がついたと感じる生徒及び教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	【生徒】【教員】 評価　Ａ　Ｂ 後期　97%　84% 前期　98%　85%	肯定的に回答した生徒の割合は高い。教員の授業改善とともに、教材として新聞を活用した授業などの取り組みにより、文章を読んで考える力を養う機会が増え、生徒自身が実感できたのではないかと思われる。外部模試での基礎学力の成績が向上していることからも、一定程度の成果がみられた。
		③	生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	３年次にジュニアマイスター顕彰制度30点以上、全商１級合格５種目以上の生徒が合わせて Ａ　１２人以上 Ｂ　１０人以上 Ｃ　８人以上 Ｄ　８人未満	評価　Ａ 12人	今年度、新たに設けた評価項目である。昨年度の実績が8名ということから評価基準を設定したところ、A評価となった。次年度は評価基準を再度検討する一方で、資格取得の指導に一層力を入れていきたい。

関係者評価委員会の評価	・できるだけ多くの企業情報を全生徒に知ってもらえるよう、ＨＰ等に載せて常時閲覧できるようにしてほしい。 ・大学等への進学にも力を入れていくべきである。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・次年度は、企業説明会の動画を撮影し、ＨＰに載せて閲覧できるようにする。 ・専門学科の特性を生かし、４年制大学への進学の道を広げていきたい。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3	学校の教育活動全体をとおして、将来の産業人として求められる人間力を磨き、他を思いやる人間性を涵養する。	①	生徒一人ひとりの生徒会活動への参加意識を高め、行事を通して人間的成長を図る。	生徒会行事（聖実祭、ホーム対抗行事）で自ら積極的に取り組んだ生徒の割合が A　９０%以上 B　８０%以上 C　７０%以上 D　７０%未満	評価　A 93%	昨年度の評価94%とほぼ変わらないが、「意欲的にできた」が31%から56%に増加した。生徒の積極性向上がみられた。コロナ禍で行動が制限される中、行事に参加できる機会が少なかった生徒たちに、ようやく日常が戻ってきた様子が感じられる。今後も生徒が意欲をもって主体的に取り組める行事を考えていきたい。
		②	ボランティア活動に積極的に参加することで、奉仕の精神や郷土愛を育む。	年間ボランティア活動に、２回以上参加した生徒の割合が A　８０%以上 B　７０%以上 C　６０%以上 D　６０%未満	評価　D 55%	清掃活動やロボレーブ大会、雪かきなど様々なボランティア活動を行っている。今年度は、全学年が遠足で清掃ボランティアを行った。昨年同様のD評価であったが、昨年35%から55%に増加した。ロボレーブ大会のボランティアは、日程の関係で大幅に参加者(昨年度140名、今年度20名)を減らすことになった。日程等を調整し、多くの生徒が参加できるよう努めていきたい。
		③	いじめや不登校の早期発見・早期対応に向け、教員間での情報共有と連携を図る。	教職員の情報交換により、問題の未然防止や早期発見に努めている教員の割合が A　９０%以上 B　８５%以上 C　８０%以上 D　８０%未満	評価　A 後期　97% 前期　97%	年3回のいじめアンケートや定期的な相談室連絡会の開催など教員相互の情報交換により、「いじめと感じた事案」については、迅速かつ早期に対応ができた。昨年度同様、アンケート集計結果も「未然に防げた」と回答した割合が高い水準を示した。次年度は、更に高い水準を目指していきたい。
関係者評価委員会の評価			・毎年、加賀市商工会等に関連したボランティアに協力してもらい、感謝している。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			・生徒のコミュニケーション力や公共性の育成にもつながる。今後も継続して取り組んでいく。			
4	Society5.0時代に役立つAI･IoT教育やデジタルコンテンツの作成など、本校における特徴的な教育活動の情報を積極的に発信する。	①	学校だより、学校Webページ、学校懇談会・見学会、報道等を活用し、保護者や地域等への情報提供を充実させる。	生徒・保護者・地域等に本校の魅力について理解を求める活動を行った回数が A　７回以上 B　５回以上 C　３回以上 D　３回未満	評価　B ５回	今年度、新たに設けた評価項目である。体験入学の他、中学校の保護者や先生への説明会、実高展などに取り組んだ。観光甲子園やロボレーブ大会について、テレビに取り上げられたことも、本校の取り組みが広く知られる結果となった。校内で開催する催しの他に、校外でアピールできる取り組みについて今後も考えていきたい。
関係者評価委員会の評価			・観光甲子園やロボレーブ大会での活躍が、新聞・テレビで紹介され、学校の取り組みが広く知られたことはよいことである。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			・課題研究において、観光やロボットについての研究をさらに深化させ、今後も情報発信していきたい。			

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
5	ワーク・ライフ・バランスを改善するため、校務の効率化・平準化を実現し、より効果的な教育 活 動 を行う。	① 時間管理の意識を高め、日頃から生徒とのコミュニケーションをとる時間を確保することに努める。	採点業務省力化ソフト等の活用で業務の効率化を意識し、生徒と向き合う時間を確保するよう努めている教員の割合が A　９０%以上 B　８５%以上 C　８０%以上 D　８０%未満	評価　D 後期　72% 前期　72%	採点業務省力化ソフトの使用率は、66%に増加したが、「生徒と向き合う時間を十分確保している」と肯定的に答えた教員の割合が昨年度より減少した。一部の教員に業務が集中するなど、改善の必要性が明らかになった。より多くの教員が生徒に向き合う時間を確保できるよう、業務の効率化を図っていかなければならない。
		② 若手教員とのＯＪＴを通し、探す無駄、待たされる無駄、やり過ぎる無駄を減らすことに努めるとともに業務の可視化を進める。	次年度へ業務を引き継ぐことを前提に置き、メモやマニュアル等を残しながら仕事をしている教員の割合が A　９０%以上 B　８５%以上 C　８０%以上 D　８０%未満	評価　A 後期　94% 前期　94%	肯定的に答えた教員の割合が、前・後期ともに94%となり、昨年に比べて改善した（昨年87%）。見通しをもって業務に取り組むことができ、生徒と向き合う時間の確保にもつながる。今後も100%となるよう、継続して取り組んでいきたい。
		③ 教員１人ひとりの時間外勤務について実態を把握するとともに早めの帰宅がしやすい雰囲気を構築する。	時間外勤務月45時間以上の教員の割合が年間で A　２０%未満 B　３０%未満 C　４０%未満 D　４０%以上	評価　B 29.4%	今年度、新たに設けた評価項目である。昨年度、時間外勤務45時間以上の教員の割合が34%であったことに基づき、評価基準を設定した。業務の平準化を進め、時間外勤務の多い職員数の減少に取り組んでいきたい。

関係者評価委員会の評価	・ＩＴ技術を積極的に取り入れ、教員の負担軽減を進めていくべきである。民間に比べて、遅れているのではないか。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・採点業務支援ソフトや生成ＡＩなどを活用し、業務の効率化、ワーク・ライフ・バランスの改善に努めていきたい。